

わからなくなってしまうであろう。

公園の自然状態のところや元の自生地近くに移植したものは、定着したようであるが、生き続け、個体数を増し、群生するようになるだろうかと不安がある。

いずれにしても、新潟県のフタバアオイ自生地の一つを保全できなかったこと、悔いがのこる。

田上町産のフタバアオイを保存のため移植したこと、これでよかったのだろうかと思いつつ、今後の推移を見守っていきたい。

(2004年11月10日 記)



写真5：移植したフタバアオイ—2004. 8. 20
スギ林の中、移植5年目の生育状態

絶滅寸前のオオユリワサビ

白 崎 仁

オオユリワサビは、栽培されるワサビに似ているが、地下茎の上部にユリ根のような4～5枚の鱗茎葉がついているものである。ワサビは水の豊富な場所に生育するが、オオユリワサビは、水辺より離れたやや乾燥しがちの場所に生育する。絶滅危惧種の一つで（環境庁自然保護局野生生物課2000、鳴橋ほか、2000）、新潟県では、南西部の青海町と北部の弥彦村、および佐渡にわずかに分布する。そのうちの弥彦村のものは古くから知られていたが、保護の観点から、生育地が明示されず、ほとんど全滅したとされている（伊藤1981）。そこは、弥彦村東側山麓にある、弥彦神社の南側の駐車場沿いのスギ林の下に、5m×5mくらいの範囲に数十株が生育するだけであった。20年ほど前に駐車場が林の境界まで拡張されて、生育場所が狭くなり、消滅の危険が迫っていた。今年の7月にこの生育地を訪れたところ、川に沿って弥彦山の山麓ロープウェイの乗り場付近まで、スギ林が伐採されて、幅3mほどの道路が開かれていた（写真1）。オオユリワサビの生育地は、この立入禁止の札の右側にあたるが、大部分の生育地が碎石で埋められて（写真2）、鉄パイプの囲いの外側では、広くゴミを燃やした跡があって、前より日当たりが良くなり、イヌタデやノブキが生育するだけになった（写真3）。オ

オオユリワサビの生活史は、春に開花結実した後に地上部が枯れて、夏季には地下茎上部に鱗茎葉がついた状態で残り、秋に再び葉を展開するので、7月ではその存在がわからない。この時は消滅したと思ったが、確証がないので結論は秋まで待つことにした。11月7日に、同地を訪れ、その場所を探すと、1個体だけが葉を展開していた（写真4）。道路工事は神社の事情によるが、工事が終わってから「知らなかった」「消滅した」では、もはや手遅れである。所有者の権利は優先されるが、国定公園内の公共性の高い場所については、管理者は、自然環境保全の意識をもっと高めてほしい。このまま保護されなければ、1個体では、もはや回復は困難で、消滅を待つだけである。オオユリワサビが、佐渡のトキと同じにならないように願っている。

引用文献

- 伊藤 至 (1981) 新潟県弥彦の植物. 188pp. 新潟県西蒲原郡弥彦村.
環境庁自然保護局野生生物課 (編) (2000) 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブック—. 8植物I (維管束植物), 660pp. (財) 自然環境研究センター, 東京.

鳴橋直弘・梅本康二・若杉孝生 (2000) オオユリワサビ、
 その生活と分類学的位置. 植物地理・分類研究 48:
 141 - 148.

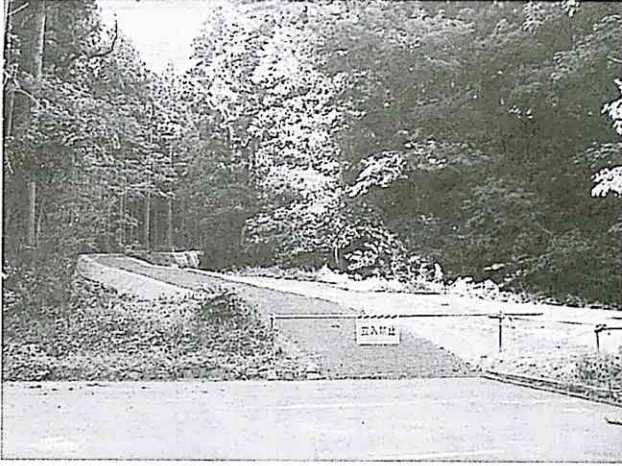


写真1. 弥彦神社駐車場から川沿いに、ロープウェーの乗り場付近まで、スギ林が伐採されて道が作られたところ。(2004年7月2日)



写真3. オオユリワサビの生育地は、広くゴミを燃やした跡があり、イヌタデやノブキが生育するだけになった。(2004年7月2日)

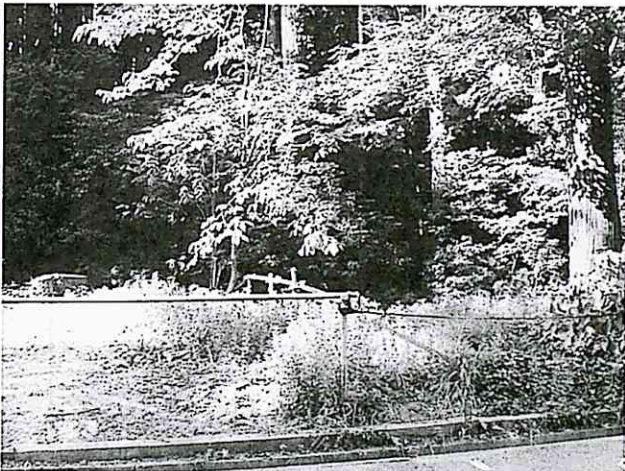


写真2. 作られた道路の起点付近にあった大部分の生育地
 碎石で埋められている。(2004年7月2日)



写真4. 1個体だけ残ったオオユリワサビ。
 (2004年11月7日)

本会宛に、環境省北陸地区環境対策調査事務所から

「環境の保全のための意欲の増進及び環境教育の推進に関する法律」
 に関する資料

が送封されて来ていますので、お知らせ致します。